

イリノイ大学派遣留学月例報告書

イリノイ大学の **fall semester** が始まってからは 1 ヶ月が経過しました。Intensive English Institute (以下 IEI) から数えれば、約 4 ヶ月です。留学生活が充実しているせいか、徐々に年齢を重ねているせいかはわかりませんが、時間の経過を大変に早く感じて仕方ありません。残り約 7 ヶ月、この留学がより充実したものになるように努力していきたいと思います。

さて、今回の報告書の内容は、イリノイ大学の授業が始まった月ですので、現在履修している科目の内容と履修目的について述べたいと思います。また、それらの講義を英語で受講するに当たっての苦労についても書きたいと思います。また、ウェブ公開ということですので、私を知らない方のために簡単な自己紹介とこの留学の目的についても説明したいと思います。

内容

1. 自己紹介およびイリノイ大学留学の目的
2. Fall semester 2003 履修科目について
3. 履修科目についての説明と履修理由
4. 授業の感想に代えて
5. まとめ

1. 自己紹介およびイリノイ大学留学の目的

私は金沢工業大学の大学院派遣留学制度を利用して、現在イリノイ大学にて学位取得を目指さない学生として活動している、システム設計専攻の 1 年生です。今年の 6 月に渡米し、来年の 5 月に帰国予定です。初めの 6 月から 8 月までは IEI に通い英語の勉強をしてきました。そして、今年の 9 月から大学の講義が始まり、現在に至っています。

留学の目的は、大きく分けて 3 つあります。

第 1 に **Speech and Hearing Science**(以下 **SPSHS**) を受講し今後の研究に役立てることで、学部時代は人間情報工学科に所属し、主に音声について勉強してきました。ですから、イリノイ大学では工学部でなく、**SPSHS** の講義を履修し、専門分野についての知識を充実させ、今後の研究に活かしていきたいと考えています。また、将来、言語聴覚士という職業に就くことを視野にいれこのコースを受講しています。

第 2 に **Theater** (以下 **THEAT**) のコースを受講することです。私は学部生時代、主に金沢市民芸術村を中心に演出として演劇活動に関わってきました。そして、これからも地域での演劇活動を充実させていきたいと考えています。ですから、**THEAT** の講義を受講し、その活動を活かしていきたいと考えています。

最後に英語です。学問の世界では公用語は英語だといっても良いほどに、英語を目に、また耳にする機会が沢山あります。そういった学問の世界で通用する英語力を身に付ける、このことも留学の大きな目的の一つです。

これら 3 つが私の留学の目的です。

しかし、この目的を読まれた方の中には、いずれも工学と直接関係ない目的ばかりであることに驚かれた方がいらっしゃるのではないかと思います。金沢工業大学は工学部だけの単科大学ですので、私も留学の申請をする際、これらの目的が大学側に受け入れられるかどうか心配しました。ですが、理解ある大学側の好意によって、これらの目的を受理していただき、留学という素晴らしい機会を与えていただきました。この場を借りて、お礼を述べさせていただきたいと思います。この文章を読んでいる学生の皆さん、工大は工学技術者のためだけの大学でなく、やりたいことなら何

でもサポートしてくれる、すばらしい大学であることを伝えたいと思います。工大への入学、工大からの留学を考えている皆さん、ぜひ工学部という枠に縛られず、様々なことに挑戦してください。

2. Fall semester 2003 履修科目について

私が今期履修している科目は下記一覧の通りです。表記は Course name and number: Class name and Credit number の順で記します。また、それぞれの Course Name を SPSH: Speech and Hearing Science, THEAT: Theater, ESL: English as a Second Language として表記します。また Course number は 100~299 は学部 1・2 年生レベル、300 以降は 3・4 年または大学院レベルの講義を指します。単位数は hours で表記し、一週間あたりの講義時間を指します。

Fall semester 2003 履修科目一覧

SPSHS 375: SPEECH SCIENCE I.	4 hours
THEAT 170: FUNDAMENTALS OF ACTING.	3 hours
THEAT 374: MODERN JAPANESE DRAMA.	3 hours
ESL 113: English Structure and Paragraph Development for Undergraduate Students.	3 hours
単位数 : 計 13hours	

3. 履修科目の説明と履修理由

次にそれぞれの科目についての説明と履修理由について述べたいと思います。

SPSHS 375: SPEECH SCIENCE I. 4 hours

この科目は、健常者の発話と聴覚の解剖学的、生理学的特性の基礎を学習することを目的としています。テキストは Willard R. Zemlin: "Speech and Hearing Science, Anatomy and Physiology" (Allyn and Bacon, 1998) を使用します。

今回の私の留学の大きな目的の一つは、この科目の履修と Spring semester に開講する SPSHS 376: SPEECH SCIENCE II を履修することです。この科目を履修し、発話と聴覚の基本的なメカニズムを理解し帰国後の研究に役立てることが目的です。

私の学部時代の研究は出力後 (マイクロフォンによる録音後の音声) の音声に対しての研究でしたので、音声に関わる機関が、解剖学的、生理学的にどのように振舞っているか、について詳しくありません。また、解剖学、生理学の扱う英語での専門用語についてもほとんど分かりません。ですから、この講義を受講することで、解剖学、生理学の音声に関わる基礎知識を得ること、また、英語での専門用語を学習することは、今後の研究を進める際に必要とされるであろう、英語論文の survey に大いに役立つものと考えます。

本講義は教授による lecture が 3 時間、Veterinary Medicine Basic Science Laboratory での TA によるレクチャーが 2 時間の計週 5 時間の大変負荷の大きい講義です。ですが、大変興味のある分野ですので、なんとか講義についていけるように努力したいと思います。

THEAT 170: FUNDAMENTALS OF ACTING. 3 hours

この科目は、演技の訓練方法と演技についての学習が目的です。テキストは Robert Cohen: "Acting ONE" (McGraw-Hill, 1984) を使用します。

私の留学のもう一つの目的は、THEATの科目を履修することで、帰国後の私の演劇活動に役立てることです。

私は金沢芸市民芸術村を中心に、演劇の演出の勉強をしてきました。舞台演出という仕事は、俳優に対して自分の理想とする演技を要求するものです。しかしながら、何が理想かということは演出自身も手探りであるものです。ですから、演出は役者と共に理想の演技を求め探求していくのですが、その役者の能力が十分に成熟していない場合は、その作業は困難を極めます。

ですから、俳優の訓練法を勉強し、未熟な俳優に対してどのように指導していくべきかを学びたいと思います、本講義を受講しています。

THEAT 374: MODERN JAPANESE DRAMA.

3 hours

この科目は、江戸期の能狂言から出発し、主に日本の戦後の演劇について講義するもので、講義はディスカッション形式で進んでいきます。テキストは下記の通り。

- Samuel Beckett: "Waiting for Godot"
- Kubo Sakae: "Land of Volcanic Ash"
- David G. Goodman: "After Apocalypse: For Japanese Plays of Hiroshima and Nagasaki."
- _____, ed: "Five Plays by Kiishida Kunio"
- _____: "The Return of the Gods: Japanese Drama and Culture in the 1960s"
- _____: "Angura: Posters of the Japanese Avant-Garde"

Prof. Daivid G. Goodman は日本の演劇についての英語雑誌『コンサーンド・シアター・ジャパン』を発行してきた日本学者です。長年に渡って日本の演劇を論評してきた彼の、近代から現代にかけて演劇についての見解を聞き現代演劇に対する考察を深めることが、この講義を取る目的です。

私は新しい演劇を作り出すためには演劇の歴史を知る必要があると考えています。思い付きでの創作は、その創作自身が新しいことであるかどうかを知ることが出来ないからです。歴史の中でどのような舞台が創られてきたのかを知ること、自身の舞台を歴史の中で相対化して捉えられるようになりたいと考えこの講義を受講しています。

ESL 113: English Structure and Paragraph Development for Undergraduate Students.

3 hours

この科目は、ライティングの能力を高めるためのクラスです。テキストは Ohshima, Alice "Introduction to Academic Writing" (Longman, 1997)を使用します。

履修目的も科目の目的と同様に、ライティングの技術を高めることです。

4. 授業の感想に代えて

本来はここで各講義の感想を書ければいいのですが、授業の個々の感想についてはもう少し授業を受けてから書きたいので、次回以降に回します。今回は授業の感想に代えて、英語で授業の受けることの大変さを中心に書きたいと思います。

IEI にいた2ヶ月と少しの間に、英語はなんとかなるのではないかと感じていたのですが、実際に講義が始まってみると、その予想は大いに裏切られることになりました。

まず、聞き取りが出来ない。IEI では、もし分からないことがあれば気軽に聞ける上、何度でも授業を中断して聞き返すことが出来ました。また、講義の内容は専門的でなく、日常話される比較的なじみのある話題が中心でしたので、聞き取りという点に関してはさほど問題はありませんでした。ですので、大学の授業も案外わかるのではと思っていたのです。しかし授業では、内容を理解する前に話題が次々に変わっていくというのが実際でした。もちろん、私一人のために授業を中断

派遣留学月例報告書（9月分）

金沢工業大学 大学院 システム設計工学専攻
蔭山 洋介

して聞き返すようなことはできません。講義の内容は専門的ですので、日常使わない単語が次々に出てきます。ですから、場合によってはほとんど分からないこともあり、大変に厳しい状況です。現在は講義の内容をノートにすることが困難であり、その対策として、教授の許可を取ってMDに講義を録音し、その録音を聴きながらノートを作成しています。いつか、講義を聞きながらノートが取れるようになりたいと思い努力の日々です。

次にリーディングです。現在の私の英語での読書力では、SPSHSの専門書を読むためには1時間3ページ程度です。これを週に20P~30P程度は読まねばなりません。また、演劇の講義でも論文、戯曲、テキストを相当数読まねばなりません。この読書の量は日本語でもおそらく相当な努力が必要な量だと思います。ですから、この読書課題をこなすために、平日は常に読書の時間です。読書は時間をかけて何とかするしかないので、努力と根性で乗り切っています。

このように、英語はなんとかかなるかもしれないという幻想は見事に消え去り、四苦八苦しながらなんとか講義について行くことで、現在は精一杯な状況です。いつか、「あのころは大変だった」と笑える日が来るように、本留学の目的を無事に果たして帰国できるように努力を続けていこうと思います。

5. まとめ

自己紹介および本留学の目的を述べました。そして、現在履修中の講義を説明し、その内容と履修の目的を改めて講義ごとに説明し、留学目的との関係を示しました。最後に授業の感想に代えて、英語で授業を受けることの大変さについて述べました。

以上を今月の月例報告とさせていただきます。